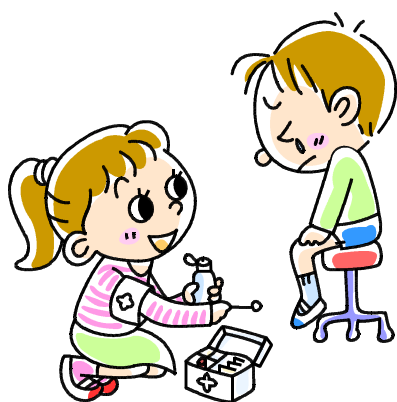


令和6年度

学校安全マニュアル

【生活安全】



【災害安全】



【交通安全】



大崎市立岩出山小学校

緊急連絡体制

【学校管理下内の事故発生時における職員の対応について】

1 担任の場合

- (1) 養護教諭に連絡，必要な処置をする。 → 他の児童への対応
- (2) 事故状況の詳細を把握する。 → 授業時間（補欠や見回りの依頼）
→ 休憩時間（児童を現場から離す）
- (3) 養護教諭より状況説明を聞く。 → 教頭，校長に連絡，指示を受ける。
救急車を要請する必要がある場合，校長，教頭の指示を受ける。
- (4) 家庭に連絡する。
 - ① 事故発生と現在の状況を知らせる。
 - ② かかりつけの病院をたずねる。（なければ，学校で病院へ）
 - ③ 保険証の持参を依頼する。
- (5) 教頭，校長に処置状況を報告する。
- (6) 相手があれば，相手の家庭にも連絡をする（複数の児童が関わる事故の場合など状況による）。
- (7) 保護者が来校したら，教頭，校長に連絡する。
- (8) 保護者に状況を手短かに説明する。
- (9) 病院から保護者が帰ってきたら，教頭，校長に連絡する（一緒に診断の結果を聞く）。
- (10) 事故者が入院した場合，放課後，病院に見舞いに行く。自宅に帰った場合は，自宅に見舞う。翌日以降，状況に応じて見舞いや電話等の対応をする。また，長期入院になった場合には，教頭，校長の指導を受けて対応する。

※ 管理下内での事故の場合，それが児童本人の過失によって生じたものであっても，学校の責任が問われることがある（施設・設備の不備や管理保管，指導の問題等保護者の対応については，十分配慮する）。

※ 事故防止対策はどうであったか。

- ・常にどのような指導を行っていたか。（教育課程のどの分野か，どんな方法か）
- ・指導が記録に残っていたか。（日誌，打合せ記録簿，日録など）

管理下の事故の場合，特に「言い訳」や主観的な状況判断は避け，誠意を持った的確に対応する。

2 養護教諭の場合

- (1) 担任からの状況説明を受ける。
- (2) 担任，教頭に報告する。
- (3) 病院に行かせる場合，事前に病院に電話して診察を依頼する。その際，手短かに状況

を説明する。

- (4) 保護者が来校したら、教頭に連絡し、保護者に担任とともに状況を説明する。
- (5) 病院に行かせる場合、養護教諭の同行は状況による。
- (6) 同行した場合、医師に事故の状況や応急措置の概要を説明する。
- (7) 同行した場合、治療に立ち会い（要許可）、診断や処置の経過を把握する。
- (8) 以後、適時、家庭訪問（病院訪問）や電話による見舞いをする。
- (9) 登校するようになったら、治療の状況を把握し、校長、教頭に報告する。
- (10) 健康センターなどの手続きをする。

頭部・目・耳の場合は、特に慎重を期す。（軽くても病院での診察を勧める）

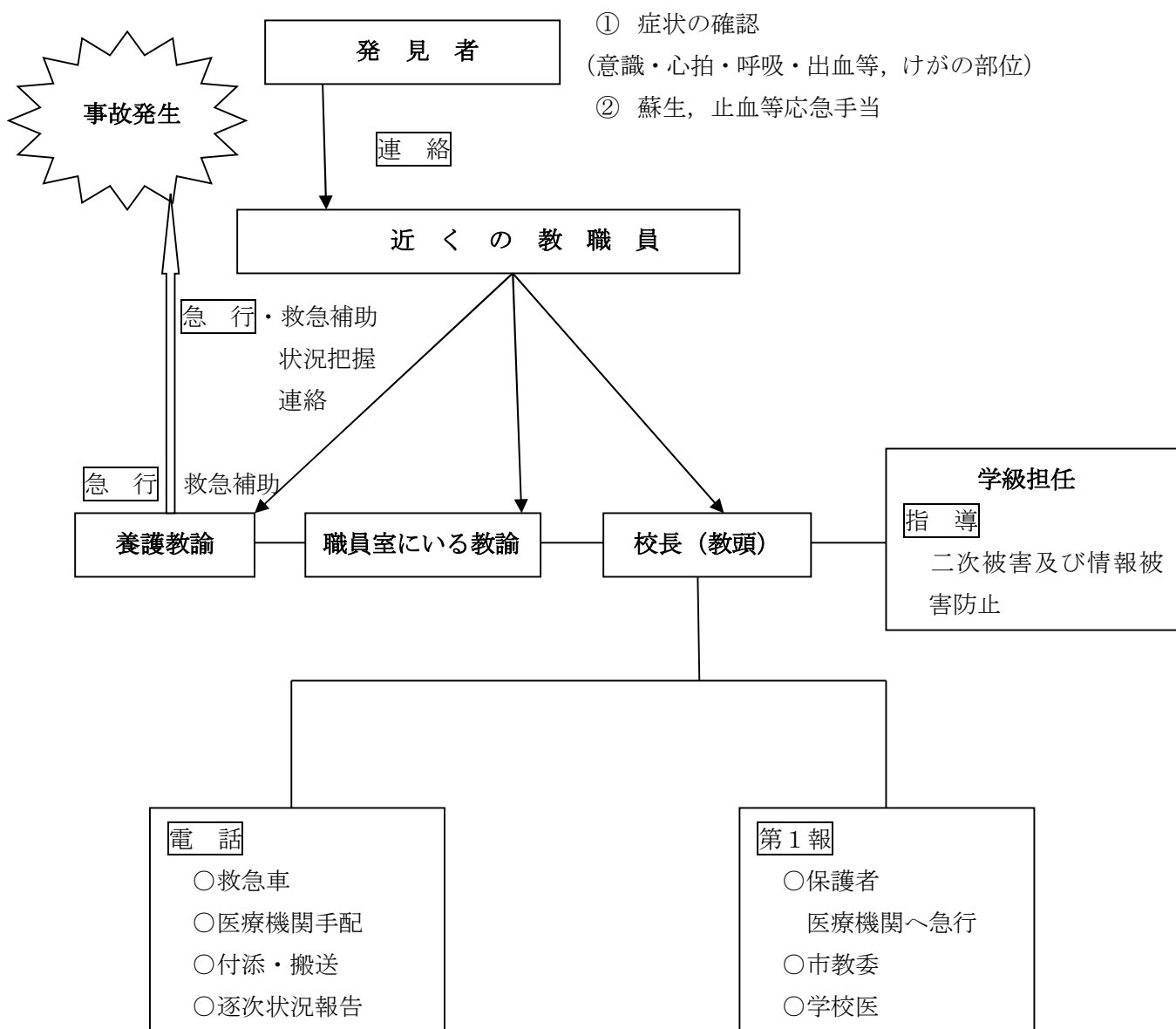
3 その他

事故の内容により、緊急を要するものや教育事務所及び教育委員会に至急連絡をしなければならないものがある。従って、事故の内容に応じた対応により、職員の関わり方も変わってくるので、校長の指示に従って冷静に対処していかなければならない。

事故発生時（交通事故含む）の救急及び緊急連絡体制

- 【要 点】 生命維持最優先（救急処置）
 冷静で的確な判断と指示
 迅速正確な連絡

1 事故の発生と連絡，急行



2 報告及び協力要請（事後措置）

- | | |
|-----------------|-----------------------|
| (1) 保護者への対応 | 迅速に，誠意をもって |
| (2) 児童への指導 | 冷静に（二次被害及び情報被害の防止） |
| (3) 市教委 | 第1報を含め逐次報告（校長の指示を受けて） |
| (4) 学校医 | 助言・協力要請等（校長の指示を受けて） |
| (5) 教職員への対応 | 共通理解 |
| (6) 事故報告書（教頭作成） | |

※必要に応じ，校長の指示を受けて

- | | |
|-----------------|--------------------|
| ○PTAへの連絡 | 会長への連絡，役員への連絡，会員全員 |
| ○警察への連絡・対応 | 協力要請ほか |
| ○報道機関への対応 | 窓口の一本化（教頭） |
| ○事故対策本部または委員会設置 | |

I 生活安全

不審者侵入の防止と対応について

不審者の対応については、普段からの防御対策を重要視し、以下のことに留意する。

【不審者の侵入防止のためのチェック体制】

場 所	不審者への対応，見守り等
①校門	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時に職員や地域のボランティアの方が見守りをする。 ・関係者以外は立ち入りを禁止することを掲示する。
②校門から校舎の入口まで	<ul style="list-style-type: none"> ・校門付近や校庭で見知らぬ人を見掛けたら，声を掛けて用件をたずねる。（できるだけ複数の職員で対応する） ・休み時間に職員が校庭を巡視する。
③校舎への入口	<ul style="list-style-type: none"> ・来校者の出入り口は職員玄関に一本化する。来校者は受付名簿に記入をし，名札を着用して校舎内に入るようにする。 ・校舎内で見知らぬ人を見掛けたら，声を掛けて用件をたずねる。名札を付けていない場合には必ず受付に案内する。

【その他の取組】

○車止めの設置

- ・車両の校庭への侵入を防ぐため，校庭の入口に常時車止めを設置する。

○名札の着用

- ・来校者には来校者用名札の着用を求める。
- ・学習参観等で保護者が来校する場合は，保護者証を着用する。

○校舎内外の巡視の強化

- ・巡回の回数を増やし，日常的に不審者がいないか確かめる。
- ・不審者が侵入しそうな場所の確認，職員の目が届きにくい場所の確認をしておき，そこを重点に巡回するようにする。
- ・巡回する時は，携帯電話を携帯し，異状の場合はすぐ連絡できるようにしておく。

○戸締まり

- ・各昇降口は閉じるようにしておき，不審者が容易に入れない環境を作っておく。

児童登校後 (8 : 15)

業間休み終了後 (10 : 40)

昼休み終了後 (13 : 40)

(1)原則 7 年部の職員が施錠をする。

(2)気付いた職員が施錠する。

※東校舎の昇降口はスマイル学級の職
が施錠する。

○張り紙

- ・来校者は，職員玄関に回り，事務室で受付名簿に記入するよう張り紙をしておく。

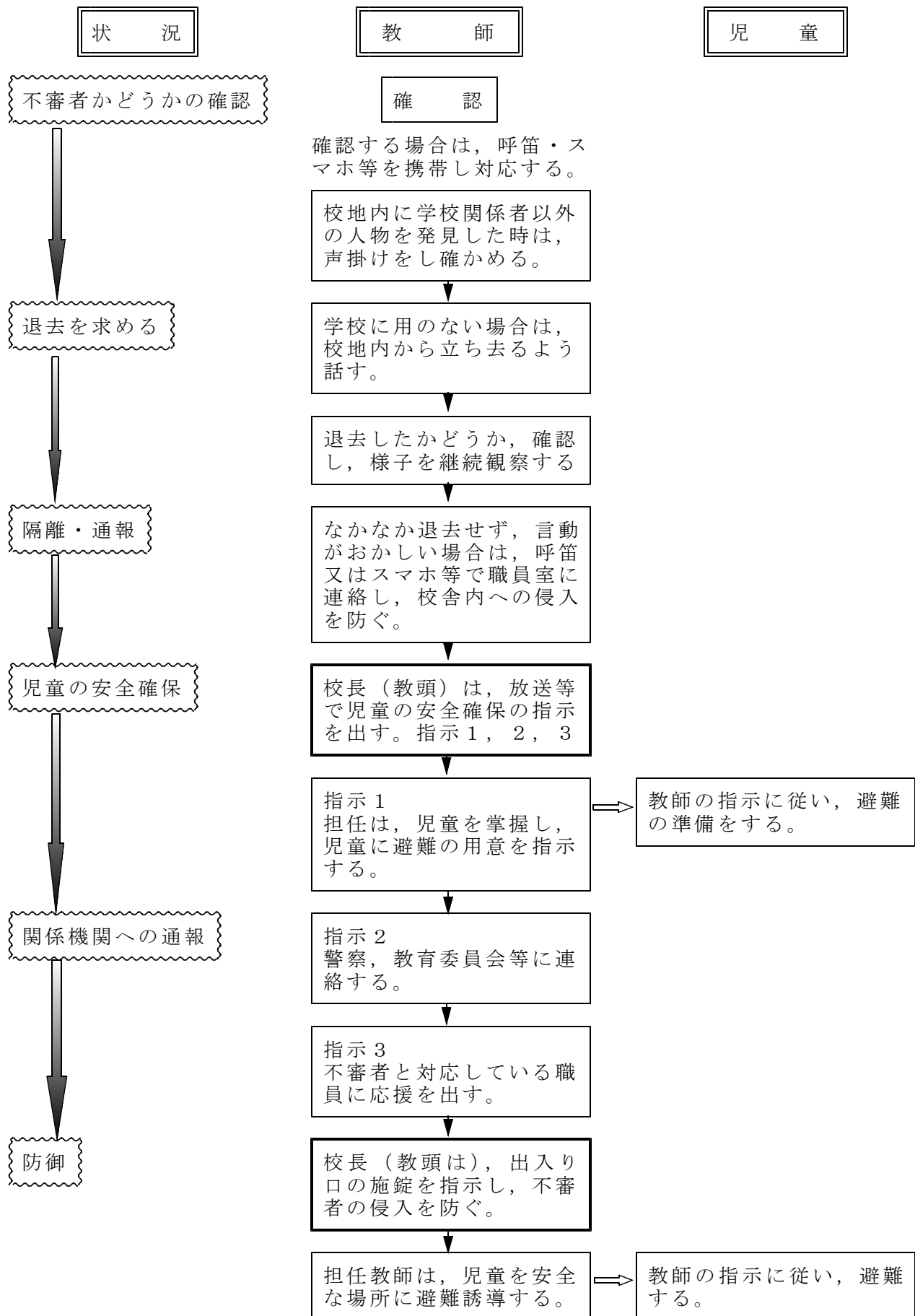
○不審者対策用ネットランチャーの常備

1 階：事務室 1－1 教室

2 階：2－2 教室 5－2 教室 6－1 教室

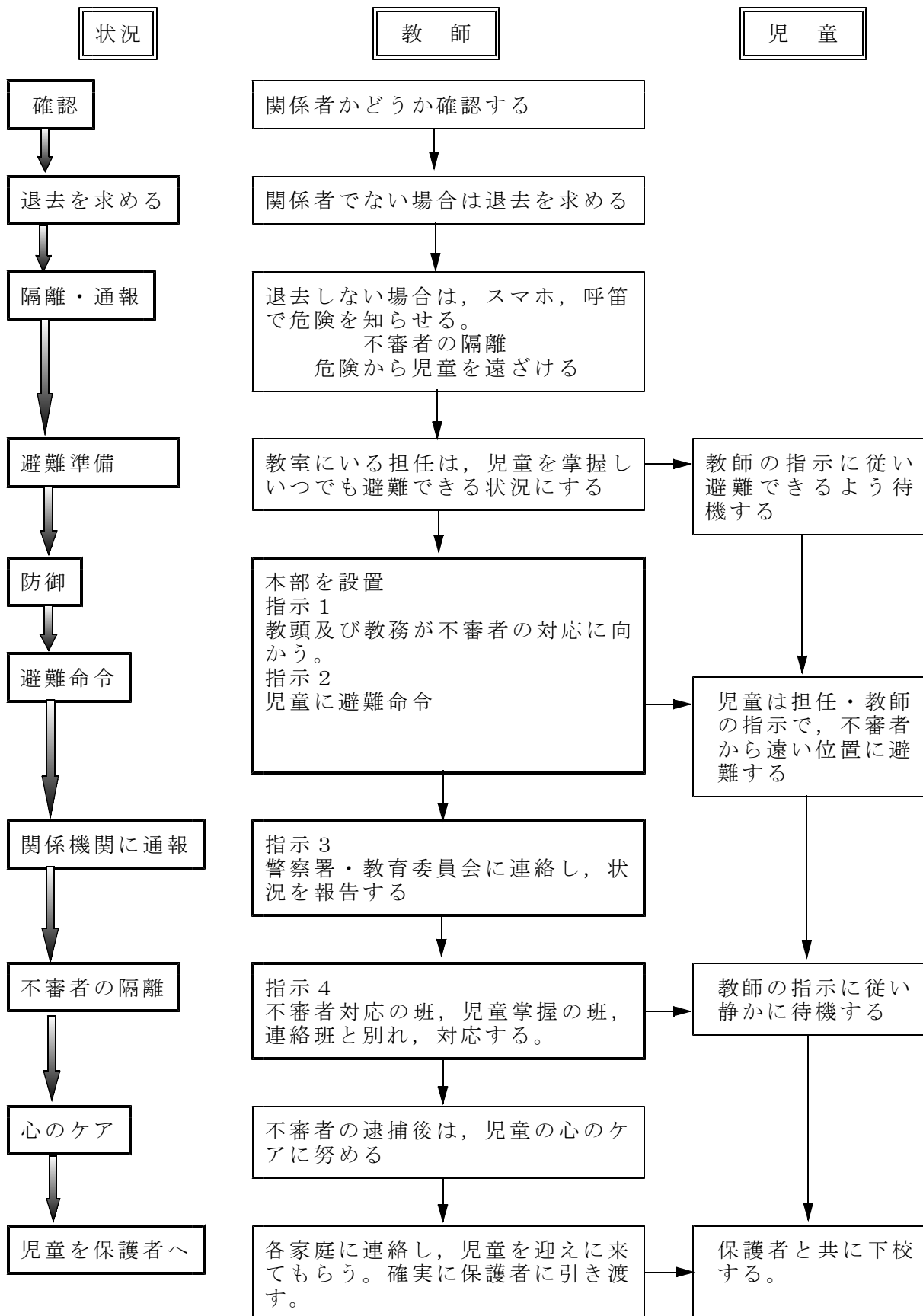
東校舎：3－1 教室 スマイル 1 教室

校内不審者による緊急事態事件・事故発生時の対応 I

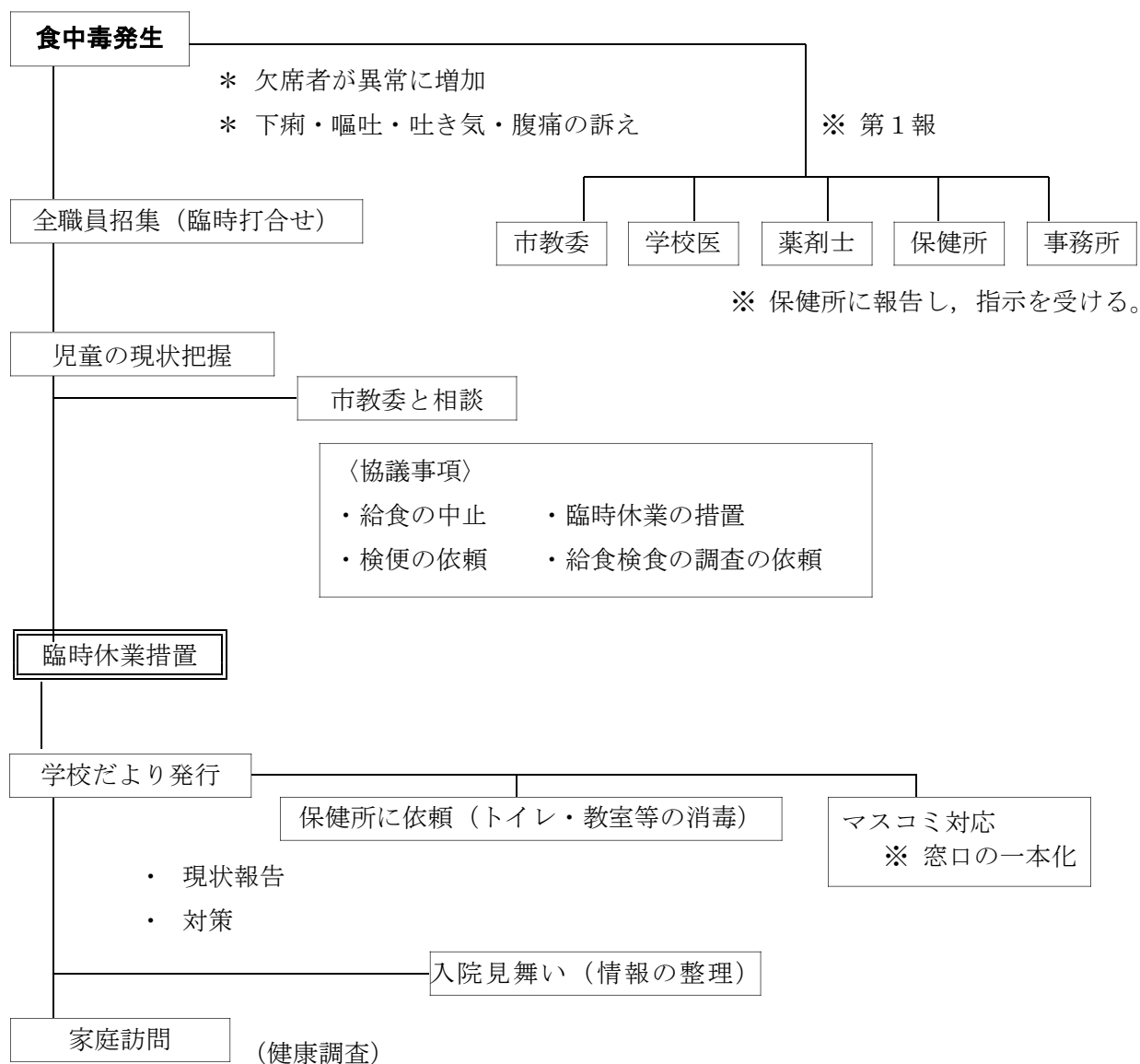


校内不審者による緊急事態事件・事故発生時の対応 II

不審者が校内に侵入した場合



食中毒発生時の対応

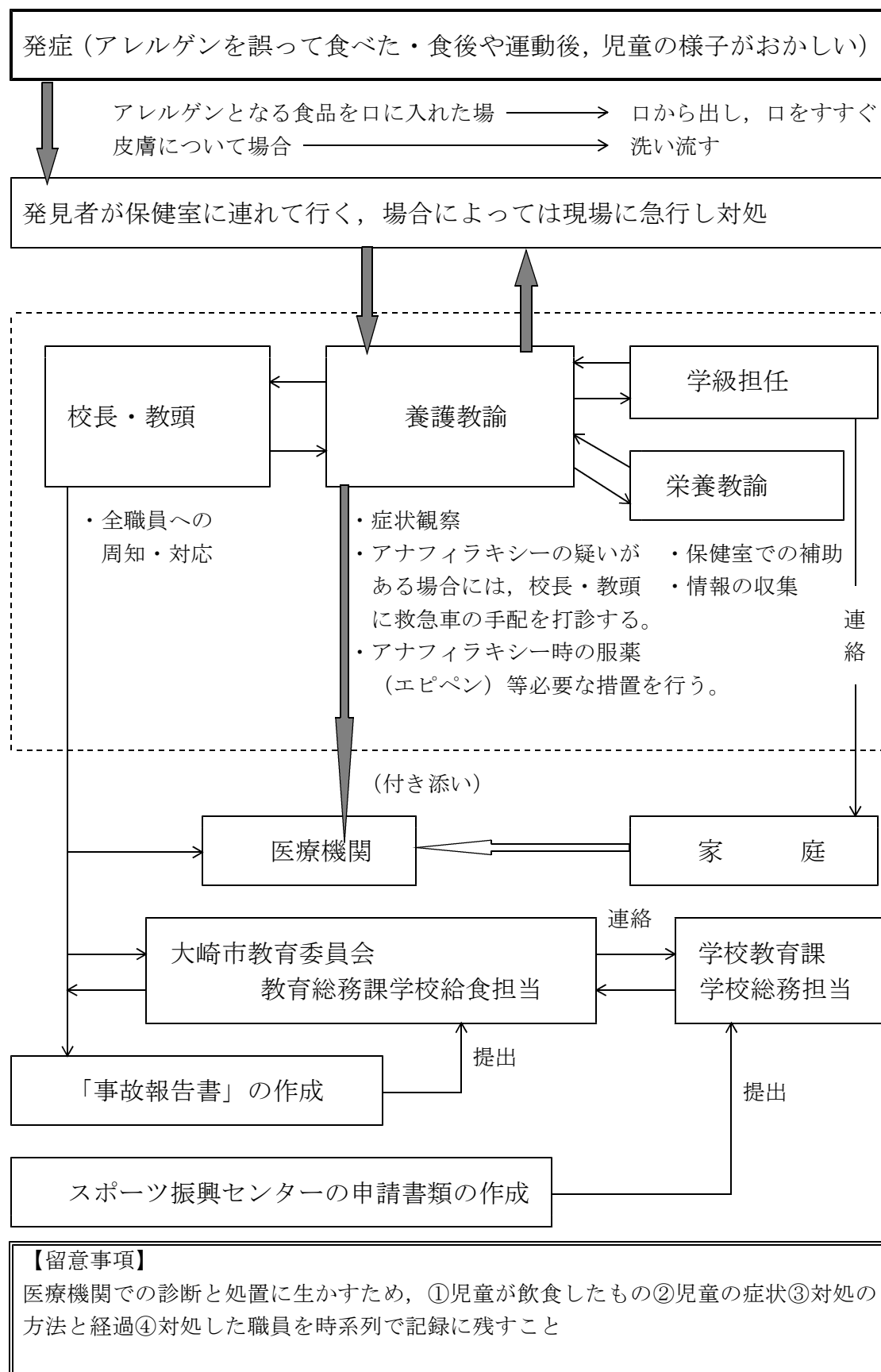


【児童への保健・衛生・給食指導の徹底並びに家庭への啓発】

- ☆ 手洗いの励行（トイレの後・食事前・調理前）
- ☆ 清潔なハンカチの保持
- ☆ 腹痛・下痢—当番から外す（医療機関へ）
- ☆ 給食時の身支度（給食着・マスク）
- ☆ 手指消毒の徹底

- 学級指導
- 実習時の指導
- 保健・学校だよりの配布
- 懇談会等での啓発

食物アレルギー発生時の対応



プールの事故対応

① 事故発生

※ 発見者が児童の場合、
大至急教師に知らせる。

※ プールからあげて着替えさせる。

② 保健室・職員室に通報

※ 必要に応じてAEDを使用する。

③ 救急車の要請

《第1次対応》

- ① 教育委員会への連絡
- ② 保護者への連絡
- ③ 保護者等からの照会への対応

※ 救急車の要請の決定と指示
[校長（教頭）]

④ 救急車へ同乗

[担任・養護教諭 等]

⑤ 病院へ付き添い

※ 学校への報告（教師）

《第2次対応》

- ① 教育委員会への連絡
- ② 保護者等からの照会への対応

⑥ 保護者への連絡

状況に応じて…

- ③ 教職員待機
- ④ 保護者の非常招集
- ⑤ 児童への見舞い

⑦ 保護者への引渡し

熱中症の予防について

○保健室前で暑さ指数（WBGT）を測定する。 ※ 8:30 10:00 13:00 の3回

○下記の表に従い、運動を実施する。放送担当（主幹教諭，養護教諭）

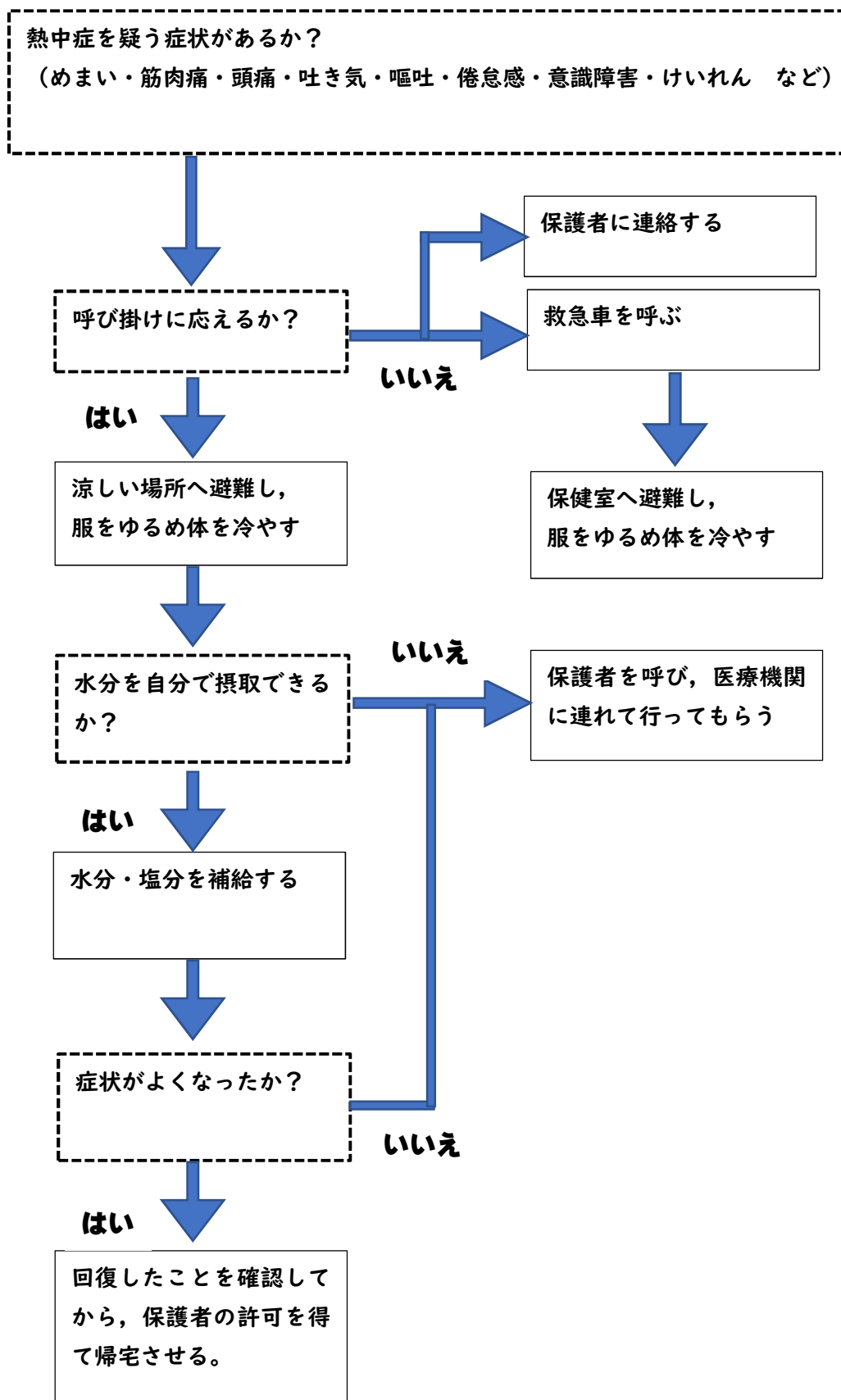
暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
31 以上	運動中止	運動を中止する。
28～31	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20 分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
25～28	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30 分おきくらいに休憩をとる。
21～25	注意 (積極的に水分補給)	熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
21 未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

参考：(公財) 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」(2019)

子供の暑さ指数

子供を想定した 50cm の高さでは大人を想定した高さ 150cm に比べ、暑さ指数は平均して 0.1～0.3℃高くなります。風が弱く、日射が強いときには 2℃程度高くなった事例もありました。また、子供を想定した 50cm の高さでは大人の高さの 150cm に比べ、地表面の影響を受けやすいため、体感温度はさらに高くなります。地表面からの反射光の遮光や熱がこもりにくい服装など、大人以上に子供の対策を心がけてあげることが重要です。

熱中症の応急処置



参考：環境省「熱中症環境保健マニュアル 2018」

Ⅱ 災害安全

大崎市立岩出山小学校災害対策要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、大崎市立岩出山小学校（以下「本校」という。）における本校学区内の災害（以下災害という）の回避及び災害発生時における被害の拡大並びに災害後の生活等災害復旧を目的として必要な措置事項を定めるものとする。

2 災害対策については、法令又はこれに基づく特別の定めによるもののほか、この要綱の定めるところによる。

(校長の責務)

第2条 校長は、本校の教職員、児童の生命、身体及び教育施設等を災害から守るため、災害対策に関する必要な措置を講ずる。

2 校長は、災害対策の実施に当たっては、関係機関と密接な連携のもとに行う。

3 校長は、本校の教職員、児童に対し、日頃から年間指導計画に基づく研修や訓練等により、災害及び防災に関する知識を啓発するとともに危機管理意識を養成する。

(教職員の責務)

第3条 教職員は、この要綱の定めるところにより、災害対策の実行に努めなければならない。

(校内災害対策委員会)

第4条 災害対策に関する重要事項の審議を目的とした、全職員を構成員とする校内災害対策委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(防災対策)

第5条 委員会は、次に掲げる防災対策を実施する。

- (1) 年間防災計画策定に関する事項
- (2) 防災教育及び防災訓練に関する事項
- (3) 施設、設備の点検・整備及び安全対策に関する事項
- (4) 情報の収集及び伝達方法並びに連絡網の整備に関する事項
- (5) その他防災に関する必要な事項

(災害対策マニュアルの作成等)

第6条 委員会は、本校の実状に則した災害対策マニュアルを作成し、児童、保護者、地域住民にこれを周知する。

(校内災害対策本部)

第7条 校長は、大規模な災害が発生、又は発生することが予想されるときは、直ちに校内災害対策本部を（以下「災対本部」という。）を設置するとともに、校内災害対策非常配備（以下「非常配備体制」という。）を命ずる。

2 災対本部の構成及び担当業務は、別表1のとおりとする。

3 非常配備体制の種類及び基準は、別表2のとおりとする。

4 校長は、災害が発生するおそれなくなった場合又は災害応急活動が完了したときは、災対本部を廃止するとともに非常配備体制を解除する。

(情報の収集等)

第8条 校長は、災害に関する情報を地域及び関係機関等より迅速に収集するとともに、収集した情報に基づく必要な措置を講ずる。

(安否の確認)

第9条 校長は、災害が発生したときは、教職員及び児童の安否確認を速やかに行う。

- 2 前項の措置を講ずる場合においては、N T T 1 7 1 災害用伝言ダイヤルの活用も考慮する。活用にあたっては、危機管理マニュアルに示すとおりとする。

(職務遂行要員の確保等)

第10条 校長は、職務遂行可能な教職員の把握に努め、災害対策業務及び本来の職務を遂行する要員の確保に努める。

- 2 校長は、教職員に前項の災害対策業務を命ずるときは、教職員の健康管理及び衛生管理上の配慮に努める。

(応急措置)

第11条 校長は、災害による教職員、児童の行方不明者及び負傷者の発見に努めるとともに、負傷者の救護について必要な措置を講ずる。

- 2 前項の措置を講ずる場合においては、必要な安全対策を指示する等二次災害の防止に努める。

(避難住民の受入れ等)

第12条 校長は、大崎市災害対策本部から本校に避難所設置の要請があったときは、速やかに必要な措置を講ずる。

- 2 前項により本校の施設を避難場所として提供したときは、校長は、大崎市地域防災計画に基づく教職員の協力等について関係機関と協議する。
- 3 委員会は、避難所が開設されるまでの対応及び開設後の対応を定めた避難所使用施設計画を作成する。

(自主避難住民の受入れ)

第13条 校長は、近隣の住民による災害被害防止を目的とする自主的緊急避難に対しては、一時的に本校の適当な場所を緊急避難場所として提供する。

- 2 前項により、本校施設を緊急避難場所として提供したときは、校長は、避難住民受入れ後の対策について、関係機関と協議し、必要な措置を講ずる。

(施設等の提供)

第14条 校長は、関係機関等から被災地域における人命救助及びその他救護活動等を目的とした、本校の施設等の提供要請があったときは、関係機関等と協議の上、当該施設を提供する。

(被災状況報告)

第15条 校長は、被災の状況を的確に把握し、大崎市教育委員会に被害状況等を報告するとともに、関係機関と連絡を密にし、事態の収拾に努める。

(災害復旧)

第16条 校長は、速やかな教育活動の再開に向け、関係機関及び保護者と連携を密に施設の復旧及び児童の心のケア等必要な措置を講ずる。

(二次災害の防止)

第17条 校長は、災害復旧にあたっては、建物の倒壊、崖崩れ等危険区域の発見に努めるとともに、必要に応じて立入禁止等の安全措置を講じ、二次災害の防止に努める。

(雑則)

第18条 この要綱に定めるものの他、本校災害対策に関し必要な事項は校長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成25年1月1日から施行する。

令和2年4月1日一部改訂

別表1 災害対策本部の構成及び担当業務

区 分		担 当 業 務
本 部 長	校 長	本校及び関係機関と連絡調整の上、災害対策業務を総括する。
副本部長	教 頭 (安全担当主幹教諭)	本部長を補佐する。
本 部 員	その他の 教 職 員	本部長及び副本部長の指揮のもと災害対策活動に従事する。

別表2 災害対策非常配備体制

	区分	配 備 基 準	学校動員体制	
情報連絡体制	0 号 配 備	1 <u>市内で震度4</u> が観測されたとき	○校長・教頭自宅待機 ただし1の場合については、地点の震度が震度4を観測した場合、学校長の指定した者が施設被害の有無を確認するとともに、速やかに市教委へ報告を行う。 ※地震発生時刻が退庁後の場合（17時15分～翌日7時までに出勤し、学校施設からの報告集約にあたる。	
		2 市域に次の警報の1つ以上が発表されたとき ①大雨警報 ②暴風雪警報 ③大雪警報 ④洪水警報 ⑤暴風警報		
		3 危機管理監が必要と認めたとき		
警戒本部体制	1 号 配 備	1 <u>市内で震度5弱</u> が観測されたとき	○校長または教頭 ※校長・教頭が困難なとき、安全担当主幹教諭	○施設被害の有無の確認及び報告（0号配備に準ずる） ○教育施設の被害調査及び応急復旧 ○被害児童の避難救護
		2 <u>台風による災害が予想される</u> とき		
		3 市域に上欄の警報の1つ以上が発表され、広範囲にわたる災害が予想されるとき、又は局地的な災害が発生したとき		
		4 災害の状況により副市長が必要と認めたとき		
特別警戒本部体制	2 号 配 備	1 <u>市内で震度5強以上</u> が観測されたとき	○原則として全職員	○災害時における応急教育の実施 ○避難所（学校施設等）の提供及び運営補助 ○所管施設における災害時物資集積場所開設への協力
		2 市内数地域に災害が発生したとき、又は、災害が拡大するおそれがあるとき		
		3 氾濫危険情報が発表されたとき、又は、氾濫危険水位（水防法第13条で規定する特別警戒水位）を超過したとき		
		4 災害の状況により副市長が必要と認めたとき		
災害対策本部体制	3 号 配 備	1 <u>市内で震度6弱以上</u> が観測されたとき	○原則として全職員（動員が自動発令される） ○業務員は、避難所の開設、運営に協力	○避難所の開設運営の協力 ○現地連絡所の開設運営の協力 ○炊き出しの協力
		2 市域に激甚な災害が発生したとき		
		3 市内全域に災害の発生するおそれがある場合又は全域でなくても被害が特に甚大と予想される場合など、災害の状況により市長が必要と認めたとき		

大雨警報や暴風警報等が発令された場合の対応

〔登校前〕

気象の状況や通学路・学校の施設、設備状況の確認



対 応 の 決 定

〈岩出山地区として判断する場合〉

午前5時30分 小・中学校で協議し、対応を決定。

午前6時00分 教頭は、決定事項を職員と保護者に連絡。

〈学校に判断が任された場合〉

午前5時50分 校長、教頭、主幹教諭、教務主任で協議し、対応を決定。

午前6時10分 教頭、主幹教諭は決定事項を職員と保護者に連絡。



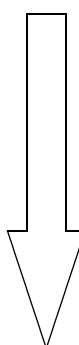
通 常 ど お り

登校時までに天候の回復が見込まれ、尚かつ通学路の安全が確保されている場合



臨 時 休 業

天候の回復が午前10時以降となりそうな場合



通学時の安全確保

- ☐ 通学路の安全確保
- ☐ 各地区に出向いての安全指導
- ☐ 通常どおり登校できない児童の把握

被害状況の把握

- ☐ 校舎内外
 - ☐ 通学路
 - ☐ 児童・職員
- ↓
- ・被害への初期対応
 - ・教育委員会への報告

下校時の安全確保

- ☐ 天候と被害状況に応じて保護者の迎えや集団下校等の措置を講ずる。

被害状況の確認

- ☐ 校舎内外
 - ☐ 通学路
 - ☐ 児童・職員
- ↓
- ・被害への初期対応
 - ・教育委員会への報告

通学時の安全確保

- ☐ 通学路の安全確保
- ☐ 各地区に出向いての安全指導
- ☐ 通常どおり登校できない児童の把握
- ☐ スクールバスへの連絡

被害状況の確認

- ☐ 校舎内外
 - ☐ 通学路
 - ☐ 児童・職員
- ↓
- ・被害への初期対応
 - ・教育委員会への報告

各家庭・児童への連絡

- ☐ 被害状況の確認
- ☐ 必要事項の連絡
- ※ 岩出山給食センターやスクールバスへの連絡を確実にすること。



◎ 翌日の対応について検討し、必要な措置を講ずる。

〔下校前〕

気象の状況や通学路・学校の施設、設備状況の確認



対応の決定

- 全職員で検討・協議し対応を決定。
- 学校（教頭・主幹教諭）は、決定事項を保護者に学校メールで連絡。
 - ※ 集団下校や保護者の出迎えが難しい場合は、天候や道路状況が回復するまで学校に待機させる。



一斉下校

下校時まで天候の回復が見込まれ、尚かつ通学路の安全が確保されている場合



保護者の出迎え

下校時は風雨等がかなり厳しいと予想される場合、又は通学路の安全が確保されていない場合

下校時の安全確保

- ☐ 下校時刻を合わせ、全校一斉に下校する。教師は、通学路の途中で見守る。

＜徒歩＞ ・柳月前交差点
・旧農協交差点
・こども園付近交差点

＜バス＞ 川北、中里・轟、西大崎、
上野目、池月、真山地区

被害状況の把握



- ☐ 校舎内外
- ☐ 通学路

- ・被害への初期対応
- ・教育委員会への報告

保護者への引き渡し

※ 詳しい内容はP 1 7

- ☐ 児童をクラスごと校庭（体育館）で待機させ、出迎え者を確認してから引き渡す。
- ☐ 出迎え者がいない児童があった場合は学級担任が保護者と連絡をし、引き渡しの方法を相談する。

被害状況の把握

- ☐ 校舎内外
- ☐ 通学路



- ・被害への初期対応
- ・教育委員会への報告



- ◎ 翌日の対応について検討し、必要な措置を講ずる。

雷・竜巻に対する対応

以下のような変化を感じたら、積乱雲（入道雲）が近付いている印であり、間もなく、激しい雨や雷、竜巻が発生する可能性がある。

〔授業中等〕

真っ黒い雲が近付いてきた

雷の音が聞こえてきた

急に冷たい風が吹いてきた

すぐに危険な場所から離れ、安全な場所に避難させる

〔登校前・下校前〕

気象の状況や通学路・学校の施設、設備状況の確認

対 応 の 決 定

※ 大雨警報や暴風警報等が発令された場合の対応に準ずる。

<積乱雲が近づくサイン>（気象庁提供）

以下のような変化を感じたら、それは積乱雲が近づいている兆し（サイン）です。
まもなく、激しい雨と雷がやってきます。竜巻などの激しい突風が起きるおそれもあります。



真っ黒い雲が近づいてきた



雷の音が聞こえてきた



急に冷たい風が吹いてきた

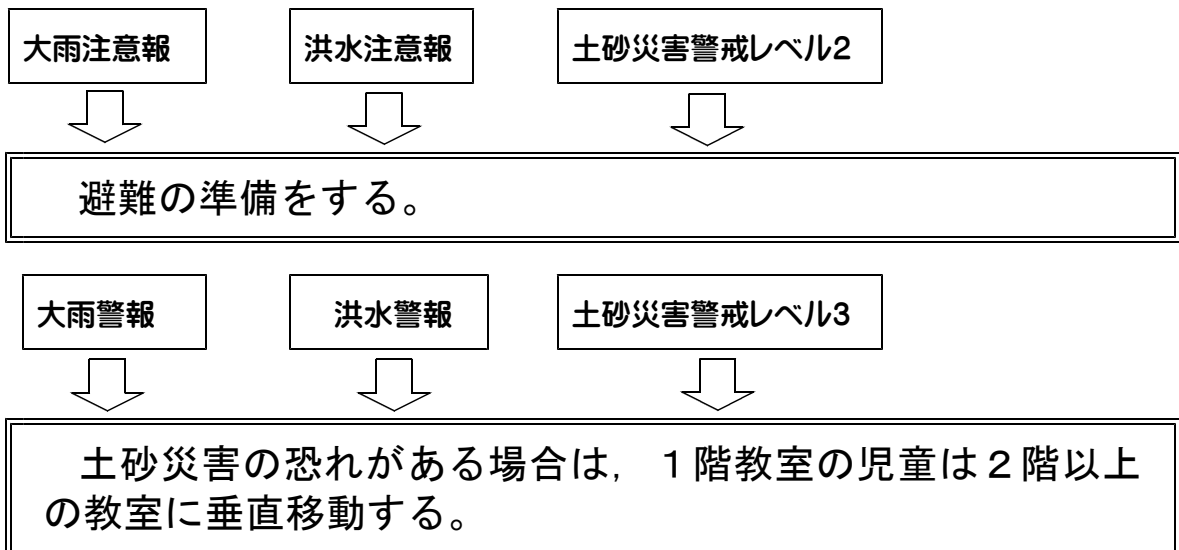
【留意点】

- ☆ 体育などの屋外活動を中断し、速やかに屋内に避難する。
- ☆ 下校前の場合は、素早く情報を収集し、必要に応じて学校に児童を待機させる。

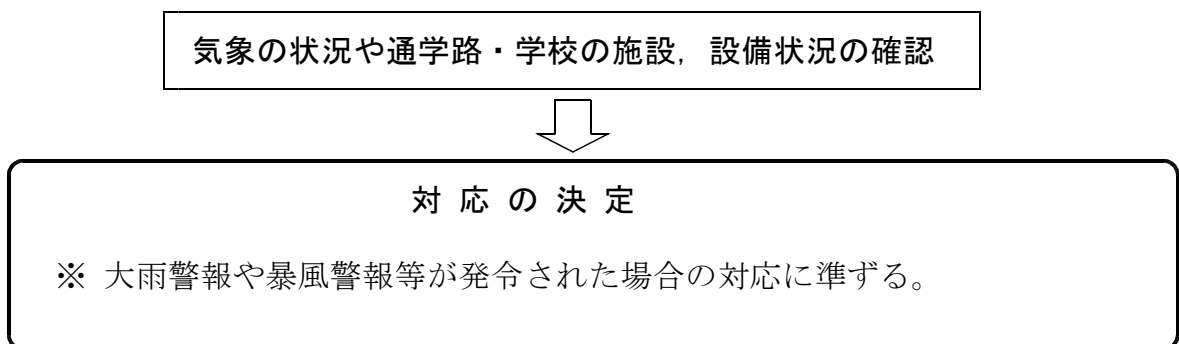
洪水・土砂災害に対する対応

気象庁のホームページ（キキクル）で洪水・土砂災害の情報を確認し、以下の対応を行う。

〔授業中等〕



〔登校前・下校前〕



火山に対する対応

以下のような変化を感じたら、火山が活動していることであり、火山が爆発する可能性がある。

〔校外学習中等〕

地鳴りがする

噴煙が上がる

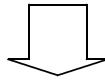
地震が発生する



すぐに危険な場所から離れ、安全な場所に避難させる。

〔登校前・下校前〕

気象の状況や通学路・学校の施設、設備状況の確認



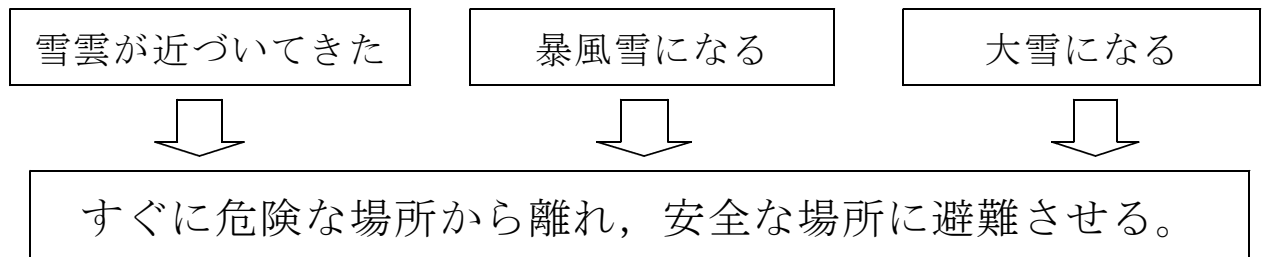
対応の決定

※ 大雨警報や暴風警報等が発令された場合の対応に準ずる。

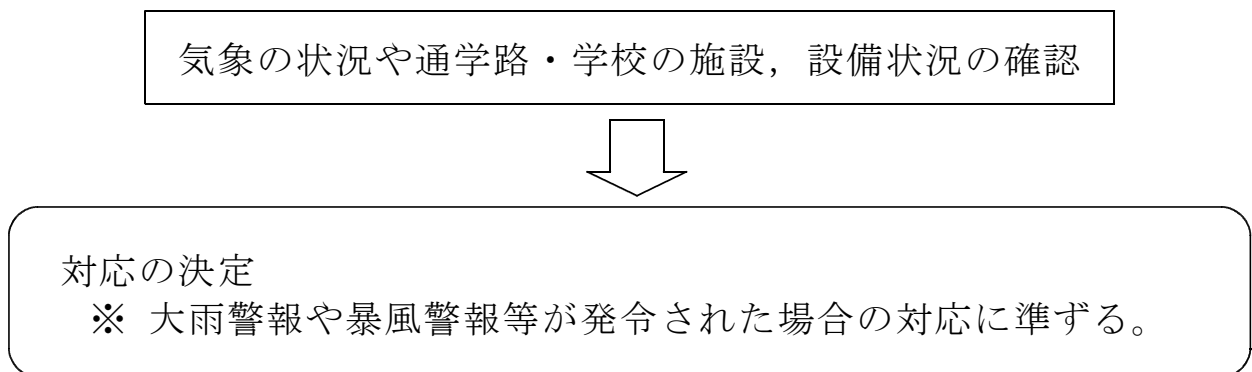
雪害に対する対応

以下のような変化を感じたら、雪が降り、雪による被害が発生する可能性がある。

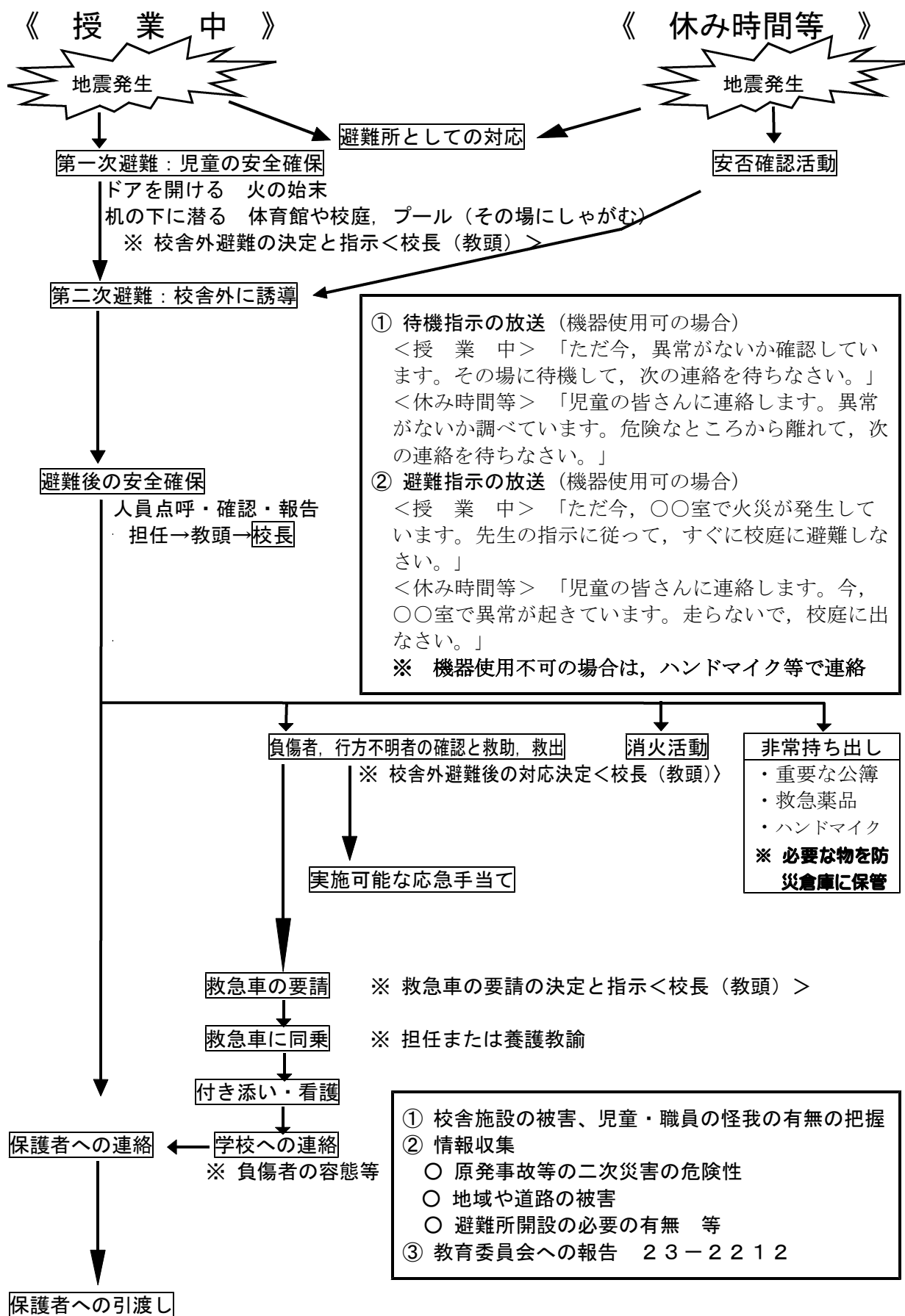
〔授業中〕

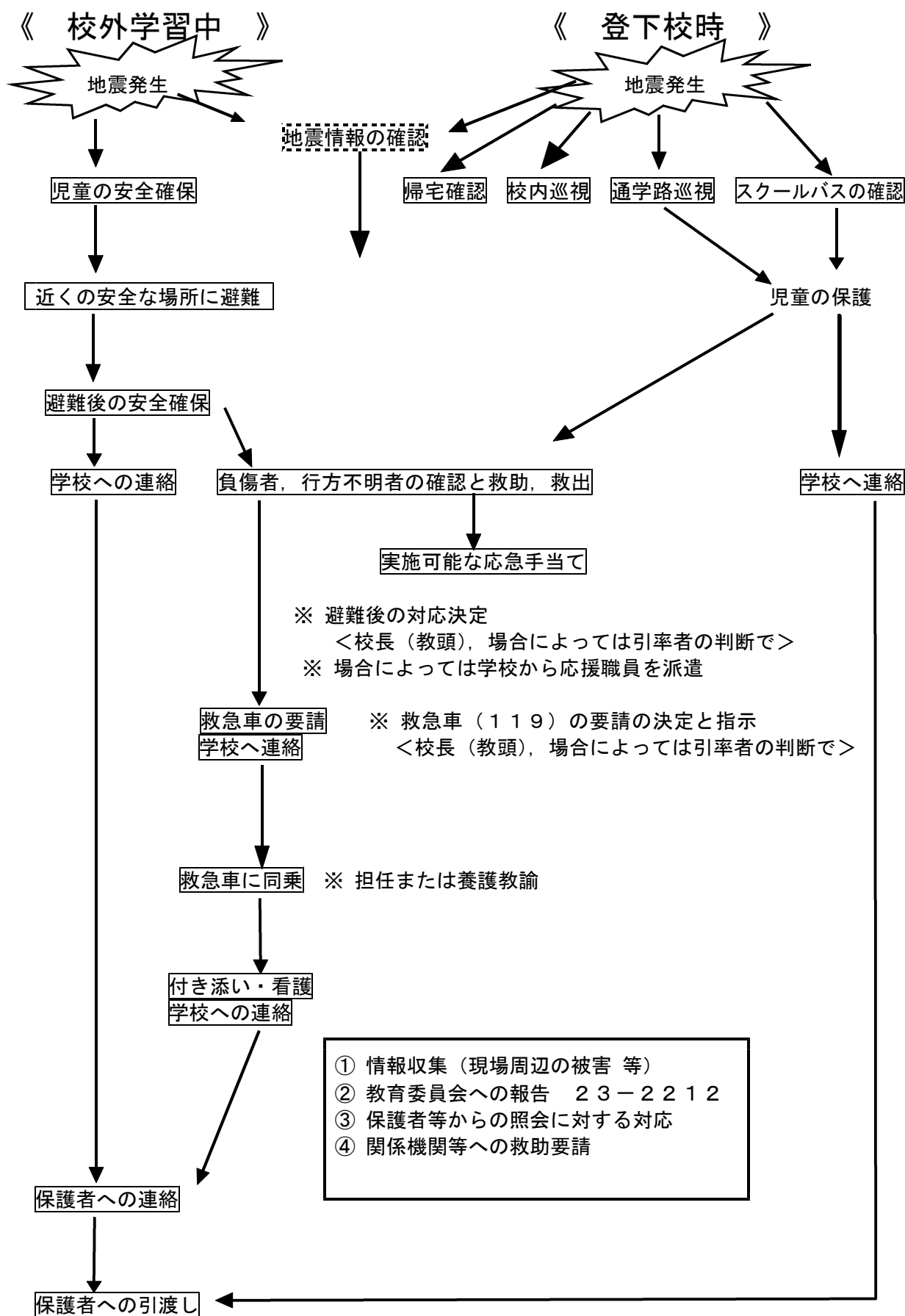


〔登校前・下校前〕



大地震が発生した場合の対応





《 休 業 日 》

